

広陵

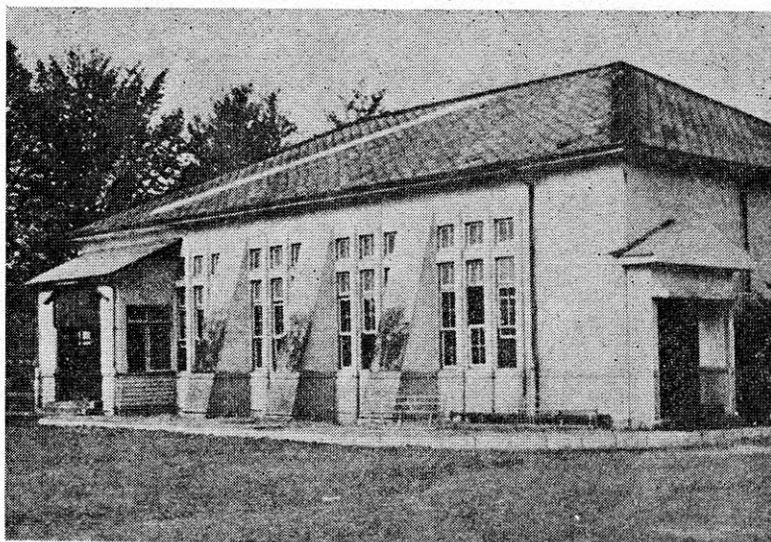


第 6 号 創立50周年記念報告号

52. 8. 1

52年度 総会 8月21日(日)

神奈川県立秦野高等学校同窓会々報

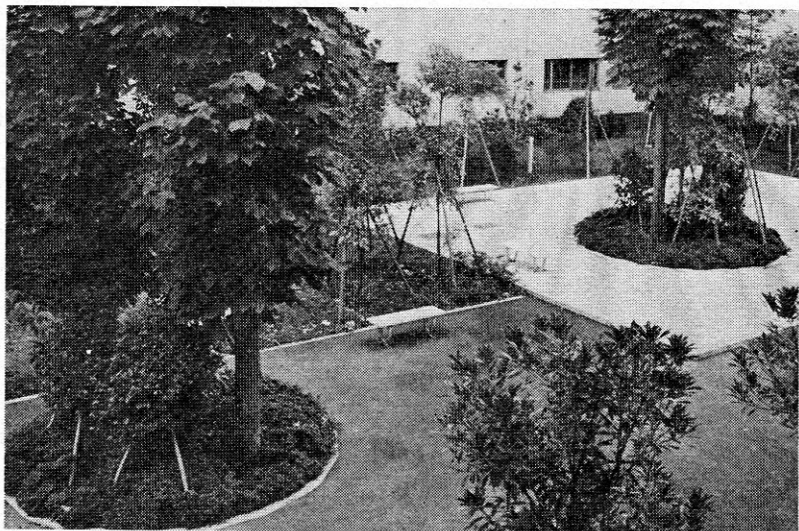


旧講堂です。昭和12年の建物としては、実にモダンなものでしたが、老朽化し危険のため、昭和46年3月とりこわされました。

同窓会々報 第六号 目次

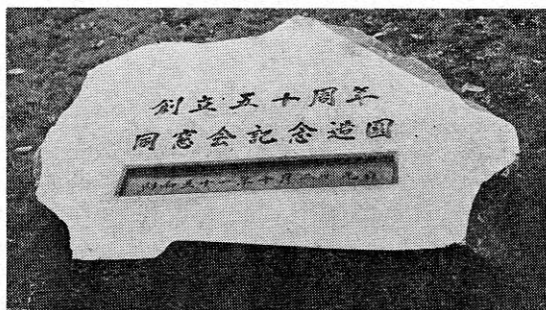
表紙	題字	宮本信義(中5)
五十周年記念事業庭園	写真(全紙面)「かぶらぎ写真館」	燕木孝之典(中15)
五十周年記念事業を終えて	会	長加藤頼章
五十周年へのご協力を謝して	母校々長	岡本弘
総会のご案内		弘 3
五十周年記念事業実行委員会報告		4・5
五十一年度総会・母校五十周年記念式典		6・7・8
五十周年記念実行委員会の解散		9
母校の近況……進学カルテなど		11・12・13・14
五十周年伊勢原支部報告		14
五十周年秦野支部報告		15
年度会費納入状況		16
五十周年記念事業醸金者名簿		17
編集後記		18

表紙の航空写真(S51年撮影)
「記念誌」へ掲載のため「かぶらぎ写真館」主、燕木孝之
典氏が、自ら飛行機をチャーターして撮影して提供して下
さったもの。



1棟と2棟の間の中庭にお目見得したアメリカンスタイルの明るい庭園。後輩の憩いの場所となっている。中央のカラー平板があざやかに緑に映えている。

50周年記念造園として、同窓生からの醸金のうち400万円の浄財が投じられ、51年10月29日母校へ寄贈された。



記念庭園内に据えられた、小松石の記念碑

五十周年記念事業を終えて

会長 加藤 頼 章（中3）

母校の創立50周年記念事業遂行簿の発行④同窓基金等決定され、に際して役員の方は申すに及ばず、なお募金委員長各事業別の委員長、会員各位の理解と協力により初期も決定され名実ともスタート致した。目的通り達成された事、私心から厚くお礼申し上げる次第であります。さて母校の創立50周年記念事業を顧りみますと皆様方ご承知の通り去る昭和四八年四月に幹事会をもちついで昭和四九年二月の幹事会が実行委員会を組織することを決定し同年四月職域・地域・期別の代表者二百三十余名が委嘱され具体的な仕事に着手することになり引続き五月に記念事業や

び先生の意見を聴いた処アメリカンスタイル庭園に決定され特殊な趣向の庭園が完成されましたが今後は後輩が有意義に未永く利用される事は深い意義がありますので私は造園委員会に対して心からお礼を申し上げる次第であります。次に第二の記念事業として会員名簿の発行であります、委員長加藤頼章以下三名のメンバーで発足しましたがこの出版に当り先ず会員の現況調査が難問であり校内幹事の先生方にはこれを夜間電話等の特殊調査により原稿を完成されたのであります。ほんごに「苦勞さまでした。なお出版に当り名簿末尾に広告することにより頒布価格節減を計図致しましたことよろ予想以上広告による淨財をいただきました事紙上をもつて厚くお礼を申し上げます。

第四の同窓会基金については予算の百万円と事業終了時の残金百六十余万円そして名簿売上残部一千四百冊の売上金等が基金として積み立てられます。

以上簡単ではありますが母校創立50周年の記念事業もほぼ完成を見たのであります。

幹事、実行委員の皆様、そして会員各位には母校創立50周年記念事業も成功裡に終了致しました事を報告するともに皆様に対して心から厚く感謝し、お礼を申し上げます。

なおこれからの半世紀の同窓会の発展のため会員名簿カードを作製中であり各市町村、部落、期、職場別名簿が完成されますので、組織の強化が私の課題でたいなる希望をもちつつ期待いたす次第であります。

それ以来各種の会合をもち募金の収集や、各事業の調査等に専念致しましたのであります。これに對し各地域、職場支部、期別等の役員の方には献身的な努力と会員各位の理解と協力によりまして計画以上の募金を集める事ができました事は誠に皆様とともに心から感謝し厚くお礼を申し上げる次第であります。

そして記念事業内容について申し上げますと第一として中庭の造園であります委員長岸上二三さん委員九名のメンバーで発足致しましたが初めは日本庭園でありましたのが初めは日本庭園でありましたのが利用する立場から生徒よの親睦を図り母校の健全なる発展

醸金方法も決まり実施のはじりとなったのであります。募金額は八百万円で一口一、〇〇〇円、口数制限なしで募金することに決定されました。また事業として①中庭の造園②同窓資料の収集③同窓名

「報載」を飾る写真
 藤本孝之與氏（中15）提供
 泰野市で「かぶらぎ写真館」を経営。泰野市写真館の老舗。
 母校創立当初から親子でアルバム作成など、技術とまごころで尽力されている。
 この会報にも無報酬で協力されている。深謝。

五十周年へのご協力を謝して

母学校長 岡 本 弘

今校長室から窓外へ眼を転じま
すと、昨年五十周年を期して同窓
会で造園された中庭に、緑の
樹木が生い育ち、豊かな木蔭が涼
しい憩いの場を、皆様方の後輩に
提供しております。

同窓会の皆様の大なるご援助と
ご協力を得まして、五十一年十月
三十日に、創立五十周年記念式典
が盛大に挙行されました。あらた
めて深甚なる感謝の意を表する次
第であります。

五十周年記念式典及び事業に關
しましては、その計画・施行につ
いて、いろいろと思いがあり、
今、昨年をふり返ってみて、大
勢の方々の力を合わせての事業と
はいえ、よくやれたものだとしみ
じみ感慨にたえません。

四十八年四月教頭として素高に
赴任してから暫くたって、当時の

五十年年度一年・二年及び五十一
年度新入生より一千円ずつ、P.T
A会費四十九年度残及び五十年、
五十一年度各五十万円ずつ、合計
二八〇万円の予算で、記念誌編集、
式典・祝宴を行うという概案が決
定しましたが、記念誌に思わぬ予
算不足が生じ、四苦八苦している
ところへ、同窓会からほんど記念
事業の足しにと五十万円いただいた
時には、本当に地獄に仏の思い
がいたしました。

以上のように中庭造園に、記念
事業にと、同窓会より物的援助の
みならず、精神的にも絶えずわれ
われ職員に励ましの言葉を送られ
き、ともすればゆるみ勝なわれわ
れの心に喝を入れていただいたお
蔭で、他の高校から素高の式典が
非常に良かったから、是非参考に
させて頂くと、時々資料を求めに
来校されるほどあります。

最後に同窓会ですますの「発
展と同窓会の皆様方のご健康を衷
心より祈念いたします。



同窓会の力添えも得て、発刊された「創立五十周年
記念誌」
「さし絵」は中5回卒 新興美術院会員の飯田良画伯
です。

平塚でお会いしましょう!!

秦中高10,000の同窓生諸君

総会日時 8月21日(日) PM 2:30から
 総会会場 平塚海浜ホテル
 会費 2,000円

駐車場は少々ありますが、車は御遠慮ください。

総会日程

PM 2:30 受付
 PM 3:00 総会
 50周年記念事業報告及び
 会計報告
 51年度事業報告及び決
 算報告
 52年度事業計画及び予
 算案、その他
 PM 4:30 懇親会

昭和52年度 秦野中・高同窓会

総会のご案内

母校創立50周年式典に際しては会員各位の理解と協力により盛大裡に暮をこじましたこと厚くお礼申し上げます。今年度の総会は平塚地域支部の諸兄の設置により平塚で行いますので多数の参加を心からお願ひ致します。

総会のご通知

会長 加藤 頼章

52年度事業計画

- 一、幹事会・総会等の開催
- 一、会報第六号の発行
- 一、支部育成の強化
- 一、年度会費納入の促進
- 一、名簿販売
- 一、在校生活動の激励
- 一、プラスバンド部助成
- 一、慶弔

51年度事業報告

- 5月 庭球、弓道、卓球の関東大会出場選手に激励金をおくる
- 6月26日(土) 幹事・実行委員会(各部報告、予算決算、総会) 於福祉会館
- 8月21日(土) 実行委員会(総会の開催方) 於やなぎ家
- 9月6日(月) 赤沢前校長(勇退)に餞別をおくる
- 10月1日(金) 会報第五号発行、八月末現在贈金者名簿作成
- 10月2日(土) 総会実行委員会 於母校
- 10月31日(日) 創立五十周年記念総会 於母校
- 3月 プラスバンド部に助成金をおくる
- 上記の他、造園、名簿部会の適時開催、募金活動、名簿販売を実施する

記念館設立準備積立金会計報告

前年末残高 五二・六・一一現在
 預金利息 三、八〇一、一七二円
 三五〇、〇四六

合計 四、一五一、二二七円

昭和51年度 決算報告

収入の部 (51.4.1—52.3.31)

項 目	本 年 度 予 算 額	本 年 度 決 算 額
前 年 度 繰 越 金	907,995	907,995
卒 業 生 入 会 費	0	0
会 費 金 入	1,100,000	1,347,000
入 会 費 金 入	1,000,000	1,000,000
雑 収	8,000	15,019
合 計	3,015,995 ^(イ)	3,270,014

支出の部

項 目	本 年 度 予 算 額	本 年 度 決 算 額
会 議 費	210,000	83,440
総 幹 事 員 会 費	150,000	10,730
委 員 会 費	40,000	49,650
事 業 費	20,000	23,060
支 部 育 成 費	1,770,000	1,649,622
在 校 生 活 動 助 成 費	600,000	640,970
プ ラ ス バ ン ド 維 持 費	120,000	134,000
造 園 維 持 費	100,000	100,000
慶 典 報 行 費	50,000	0
報 行 費	50,000	35,000
事 務 費	850,000	739,652
事 務 局 費	167,000	162,200
通 信 費	150,000	150,000
印 刷 費	10,000	0
森 林 組 合 賦 課 金	5,000	10,500
予 備 費	2,000	1,700
予 備 費	868,995	0
合 計	3,015,995 ^(ロ)	1,895,262

次年度繰越金(イ)-(ロ)=1,374,752円

昭和52年度 予算案

収入の部 (52.4.1—53.3.31)

項 目	前 年 度 決 算 額	本 年 度 予 算 額
前 年 度 繰 越 金	907,995	1,374,752
卒 業 生 入 会 費	0	890,000
会 費 金 入	1,347,000	1,100,000
入 会 費 金 入	1,000,000	0
雑 収	15,019	8,000
合 計	3,270,014	3,372,752

支出の部

項 目	前 年 度 決 算 額	本 年 度 予 算 額
会 議 費	83,440	170,000
総 幹 事 員 会 費	10,730	100,000
委 員 会 費	49,650	60,000
事 業 費	23,060	100,000
支 部 育 成 費	1,649,622	1,570,000
在 校 生 活 動 助 成 費	640,970	500,000
プ ラ ス バ ン ド 維 持 費	134,000	120,000
造 園 維 持 費	100,000	50,000
慶 典 報 行 費	0	50,000
報 行 費	35,000	50,000
事 務 費	739,652	800,000
事 務 局 費	162,200	116,700
通 信 費	150,000	100,000
印 刷 費	0	10,000
森 林 組 合 賦 課 金	10,500	5,000
予 備 費	1,700	1,700
予 備 費	0	1,516,052
合 計	1,895,262	3,372,752

五十周年記念事業報告

- 一、目標八百万円の醸金
目標額を大市に突破、一千百十余万円を達成
醸金者数も三千九百余名
各位のご協力が厚く感謝します。
 - 二、同窓会を行った主な記念事業
1 造園：母校中庭にアメリカンスタイルの庭園を完成
記念碑も掲げてある。施行は横浜市の横山緑
化建設 KK
2 会員名簿の発行：前回より九年振りに会員数九千四
百余名の新名簿が出来上る。印刷は小田原市
協和印刷 KK
3 資料収集と陳列ケースの設置：50周年記念誌編集の
ため各方面から収集した資料を中心として、
六つの陳列戸棚に展示保存されましたので
の折、お立寄りを
4 同窓会基金の充実：醸金額より百万円を通常会計に
繰入れ会運管の円滑化を図られた
5 母校50周年事業への賛助：母校の記念式典費用の一
部として50万円を支出
- 尚、前回発表（昨年八月締切）以後醸金された方の
氏名は()の会報に掲載してあります。
又、会員名簿は、まだ残部があります。一、〇〇〇〇
円と送料三〇〇円を添えて申し込み下さい。

創立五十周年記念事業 実施委員会報告

資料収集・会計・
造園・名簿各委員
会から

部会活動としての自慢話、苦勞 誌編集委員会の九名の先生方、委
話とも言えるものがないのは慚愧 員長配島先生、土屋先生のご苦勞
の至り。実行委諸兄の活動の成果 の成果であることに深く敬意と感
は、母校で「秦高の沿革史」を編 謝を表します。

資料収集委員会

湯沢昇平(中3)

集されるに際し 広陵第五号にこれらの写真、母
て、あちこち訪 校の沿革の概要が載せてあり、又
問し苦心して細 同窓会名簿にも沿革があります。
り出した資料品 名簿は是非購読し且つ活用して
を展示に供され 下さい。またたくさんあります。
ましたが、一括 同窓生諸兄は何をおいても一度
展示の形となっ 母校を訪ね、出来上った庭園と
ています。もと 展示資料をこ臈になるようすすめ
もと同窓会の長 ます。三六五日の何倍だけの自分
期計画で会館建 の人生がそこにあると思つてよい
設があります。 でしよう。小生兄が育英へ通い弟
で、将来は母校 が奈良中、秦中であり甥共四人が
が奈良中、秦高なので本同窓会の筆頭株主を 資料があり昔時の教育がどんなも
自認していたのですが、展示に供 のか見ることが出来ます。
古趣味でなく県西部における教育 した、三郡共立学校(明治三六年 育英学校の卒業生を同窓会名簿
史的なものになると考えます。 ・一八九三年)の賞状「右は学力 に載せることはすでに会へ決めた
この収集品は多くが母校五十年 優等に付頭書の書籍貸与候也」を ことですが、その資料を揃えるの 有意義にな

とが出来なかつたのは遺憾です。
育英の人は他の五年生の中学へ
編入学した
り別のコー
スへ移った
方などがあ
つて把握で
きませんが
すでに物故
が判つたら
思い切りに
噂だけで
もあの方も
この方もと
思いもよら
ない隣人が
そつであつ
たりして、
同窓会が一
回り大きく
と想います。

(湯沢記)



陳列資料は母校「五十周年記念誌」のため
に収集されたもので陳列ケースは「資料収
集委員会」で購入した。

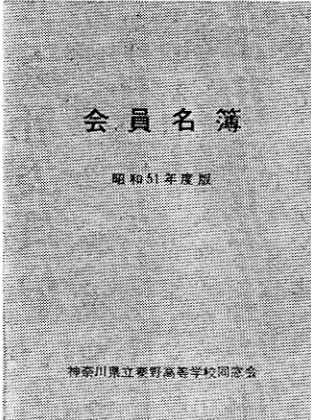
名簿委員会

中根 三郎 (高3)

母校創立五十周年を記念して、新しい会員名簿を発行した。数回にわたり委員会を開催し、名簿作成について細部の検討をくり返した。前回に比し会員数も倍増していることもあり、判の大きさをB5判に改正した。

円の助成をおぼき、一方では各事業所をまわり広告一四〇万円を集めた。また印刷所(中五・武田英俊氏)の採算を無視した御協力を得、一部千円で頒布することができた。

会員の住所・勤務先等の調査に、多数の会員に利用していただき、三千部作成し、また単価も可能な限り低くおぼせることが決定された。記念事業費から一三〇万円変更、改姓等多数あり、その上



9年ぶりに改訂された 会員名簿
1部 1,000円で頒布中

音信不通者も年々増えつたり、その調査は困難を極めた。校内幹事と調査に協力いただいた方々には紙面をかりて御礼申しあげたい。発行後数個所の誤りが発見され、その後の変更分を合せて、正誤表を作成した。名簿の生命は、その内容の新鮮さと正確さにある訳で、今後共益々充実した名簿になるように努めたい。その為、住所や電

話・勤務先・姓名等に変更があったとき、また同窓生についてもこれらの消息の届った場合には、御面倒ながら是非其本部宛に御一報いただきたい。

この名簿が、支部の活動や同期会あるいは職域での親睦等に少しでもお役に立てば、編集者の一員としてこれに過ぎる喜びはない。

造園委員会

川口 祥有 (中17)

四千名に近い同窓が四百万円をします。造園計画の目標が、(1)若浄財をとうじて母校とその後輩に寄贈した創立五十周年同窓会記念造園(記念碑として石刻)は、母校の中に洋風のたたずまいを見せています。

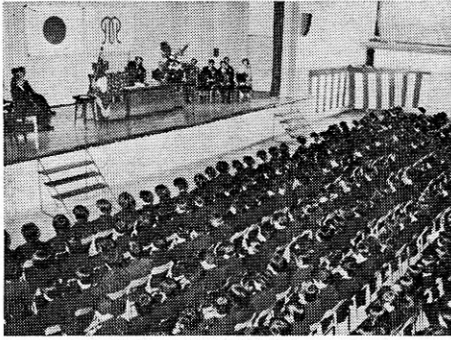
造園施工までの経過については、広陵「創立五十周年記念号」で報告されましたので、ここでは庭園柵を縁石で円く囲んでアクセントの様式や植栽について報告いたします。

その周囲にカラー平板とス

ファルトによりモダンなフリースペースをもうけ、別一部ゆるい傾斜の築山(植芝)を配して平面スペースに立体感をもたせています。外周には柵、様を植樹し、同窓の皆さん、機会をみて母校の庭園を訪ねてください。心より皆さんの協力で深甚な感謝をさせていただきます。

在校の後輩諸君は、この庭園で友情と母校愛をはぐくみ、大いなる発展をとげることを信じます。





50周年記念式典は300余の来賓をむかえ、質素のうちにも厳粛に挙行された。

五十一年度総会

五十周年を記念して母校で

十月三十一日(日)

広畑ヶ丘に秋も深まり秋冷の気れその一人として参列し創立当時を感じ銀杏プラタナスの大樹も枯の思い出を胸深く感じた次第であ葉を舞わせる昭和五一年十月三十一日母校で創立五十周年を記念して、待望の昭和式典が厳粛かつ盛大裡に開催され、和五一年度総会が開催されました

案件

第一部

- (一) 二年有余前から計画し準備を致してまいりました
母校誕生半世紀の記念事業として
①教育環境の
中に記念を残す造園
②同窓活動の一助となる会員名簿の出版

昭和五十一年十月三十日母校体育館において、県教育委員会代表をはじめ教育関係者代表三百余名を迎え、教職員七十余名在校生千三百余名により盛大に挙行された。

わが同窓会においては、代表として歴代会長副会長が招待され、永年の功績に対して感謝状の贈呈

- ③同窓生の半世紀にわたる諸資料の収集
④同窓活動のための基金
⑤母校創立五十周年事業への賛助等の諸事業を遂行するため
の資金としての募金活動の経過報告
(二) 五〇年度の決算報告
(三) 五一年度の予算案

第二部

- アトラクション吹奏楽演奏
落語研究会の公演
第三部
懇親会 盛大裡に終了
以上の外、校内文化祭見学、造

母校五十周年記念式典

同窓会長・歴代役員が参列

三百余名の列席で盛大に

五年教育組合立奈珂中学として開校して以来実に五十年、九千余人の有為な人材を輩出した。母校の光輝ある歴史をしのびつつ、教育の理想の実現をめざして昭和の激動期を生きた母校の限りない発展を念じて止みません。(川口記)



ご苦労さまでした。

50周年記念事業実行委員会を解散

7月16日(土) 大川 楼

母校創立50周年記念事業の実行委員の委嘱が行われたのが、昭和49年4月のことと、①造園 ②名簿発行③資料収集④会計⑤会計監査の五つの部に分れ、母校半世紀の歴史を飾るにふさわしい記念事業と、3年有るで總會のよつじやないか」の声を余に亘って日もちらほら。水を浴びた庭の植木力も涼を呼び、開会前の各所で起るたわわですが、笑い声にも明るさが漲って、報わの申し出に全 会長の各部の事業の完成を祝い、又その苦労をねぎらう挨拶に統一部門の記念事業、各部毎の報告に移り、残金と業が立派に終

母校創立50周年記念事業の実行委員の委嘱が行われたのが、昭和49年4月のことと、①造園 ②名簿発行③資料収集④会計⑤会計監査の五つの部に分れ、母校半世紀の歴史を飾るにふさわしい記念事業と、3年有るで總會のよつじやないか」の声を余に亘って日もちらほら。水を浴びた庭の植木力も涼を呼び、開会前の各所で起るたわわですが、笑い声にも明るさが漲って、報わの申し出に全 会長の各部の事業の完成を祝い、又その苦労をねぎらう挨拶に統一部門の記念事業、各部毎の報告に移り、残金と業が立派に終

特に秦野・伊勢原・大磯・二宮 支部などの活躍目立つ

了し、実行委員会が解散することになりました。さて、解散会は、前回の幹事、実行委員会合同会で、会長、事務局に一任されたのですが、精一杯慰労はしたいものの、一方、会員一人一人の浄財であることや、また募金に携った方々の「苦労を思うと仲々思つて任せず、結局千円会費といふことでしたが、さすがに三年間の苦労を共にして来ただけに、出席者数も四〇名と多く「まるで總會のよつじやないか」の声もちらほら。水を浴びた庭の植木も涼を呼び、開会前の各所で起るたわわですが、笑い声にも明るさが漲って、報わの申し出に全 会長の各部の事業の完成を祝い、又その苦労をねぎらう挨拶に統一部門の記念事業、各部毎の報告に移り、残金と業が立派に終

金の処理についての審議に入り、各部毎の反省会は別に行わずに、すべて通常会計の充実に使うとい

ひろはた便り 50周年記念誌の表紙絵

一昨年の七月に校内の「五十周年記念氏(山岳小説家)の著書のさし絵誌編集委員会」が発足し、配島委員長以下九名のメンバーは、お願ひできたら、記念誌にふさわしいのではないかと、このように形態にするのになど基本方針の検討などからはじめた。

その中で、表紙に願ひの使い役をする事に小生がなつてはどうかという事になり、早速、配島先生と二人で、秦野市堀川のお宅にお願ひに参上した。先生は、丁度、高島屋の個展の準備にお忙しかつたのだが、賢美剛健の母校の気風をかもした、新興美術院会員 飯田良画伯(中5)に

員一同からの要望が出された。お願ひの使い役をする事に小生がなつてはどうかという事になり、早速、配島先生と二人で、秦野市堀川のお宅にお願ひに参上した。先生は、丁度、高島屋の個展の準備にお忙しかつたのだが、賢美剛健の母校の気風をかもした、新興美術院会員 飯田良画伯(中5)に

かも、その記念誌の表紙を飾れるという事は、本当にありがたいことだと、快諾をしてくださり、わざわざ学校まで出向かれてスケッチまでされ、色刷りでは費用がかかるので、黒一色でお願ひしたいなど、勝手な注文までつけてしまつてお願ひにもかわからず、気持よくお引き受けくださつて、かつ、題字まで、書いていただき、本当に

新興美術院会員 飯田良画伯(中5)に

う誠に健全な積極的な結論となつた。募金が好調だったため、残金が百五十万円位になりそうなので、これが通常会計に繰入れられれば、従来の「年度当初に借金して年度末に、卒業生の入会金で返済する」というやりくりは不要とな

り、会の運営も非常に楽になると思われる。最後は懐かしの母校の発展と、会員各位の健康を祈りつつ、校歌と万才三唱で手じめを行つて散会していった。心から「苦労さんでした」といいたい。

(石原記)

た、新興美術院会員 飯田良画伯(中5)に

陸上部全国大会へ (8/1と5 岡山)

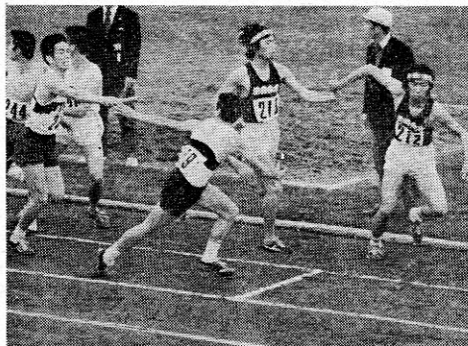
来るか再び黄金時代

草薨 MH 県高校新記録 400M 全国ランキング二位

陸上部顧問 石原春 男

部活動だより

去る五月二十八日、九日藤沢の岡島、小町、草薨(三分三秒六)体育センターで行われた県高校総(大会新)第一位、二段跳小泉雅合体育大会で総合三位に入賞し、広一(四〇〇)第一位、女子走巾跳た。その内容は以下に示す通りで、曾我久美子五(三)第三位、以上ある。四〇〇(草薨)五〇秒三第の者が関東大会に駒を進め、雨天三位、一五〇(大川)四分八の太田市競技場で頑張って戦って秒五第五位、五〇〇(さ)ました。結果は四〇〇(草薨)五〇秒九第四位、四〇〇(草薨)四六秒三第三位、四(彰)五五秒一第一位、一六〇(草薨)四〇〇(草薨)草薨五(四) (横山岡島、小町、草薨)三分二六秒六(県高校新、大秒七第二位、二段跳小泉雅広一三会新)第一位、小町(七)第一位、以上が八月の全国和弘五五秒五第三位 高校総合体育大会に勝ち進んだが四〇〇(草薨) (高橋) その他に小町の四〇〇(草薨)、大川草薨、横山、水野)の五〇〇(草薨)が第七位、一五〇(四三秒五第三位、一(大川)が第九位と惜しくも入賞六〇〇(草薨) (横山、をの)がし涙をのんだ。さて、八月



400M障害で県新をマークした後輩のバトンタッチの一瞬。(県立体育センター)

の全国大会は四〇〇(草薨)、四〇〇(草薨)として活躍し陸上競技は高校になり、一六〇(草薨)R、三段跳に出場して始めたばかりでその素質は計するわけですがこれらについて若干説明をします。特に四〇〇(草薨)が十分期待できる。全国大会では四〇〇(草薨)Hに出場する草薨はまだ五十四秒二で第六位以内を目標に二、二年生でありながらすでに県高校意欲的に練習に打込んでいる。一段跳の小泉雅広は自己最高記録一新記録をマークし、七月初めまで六〇〇(草薨)Rは現在全国高校ラの全国高校ランキング第二位とすンキング第九位で入賞まであと三〇(草薨)は現在全国高校ラは現一、二年生の横山欣也を加えて一走から四走まで続きですがそれにもましてたもの穴がなく、こしいのは主力選手が二年生ですのンスタントで来年もまた今年以上に期待がもな力を發揮てそう、第二期黄金時代の再来と特に第二走ております。同窓会の方々の応援者の岡島は、もよほしくお願いします。四〇〇(草薨)を

剣道部
関東大会出場
 九年來の念願かなう
 顧問 茂木 哲夫
 剣道部は 選会で二回にわたる三位入賞と今春、県予 数年來の念願であった関東大会出

母校の福祉活動について

— 献血運動を中心として —

顧問 青木利之

昭和四十三年以降の卒業生の方金一万三千円余りになりました。なら、在校中献血の経験のある人、これで寝たきり老人や、一人暮らしもおられるでしょう。それ以後十の老人に、暑中見舞状を出そう年近くも続いて、延人数にして四という訳です。その他、生徒の通千名近くの人が献血に協力下さい、学路に「ミ箱」を設置したり、清掃しました。現在では春秋一回、延人をしたりして、地域社会との結び数にして二人に一人の割合になつていきます。当初は、担当職員が宣

伝しないと思う様に集まらなかつたのが、現在では学校行事のような形になっています。昭和四十七年には、厚生大臣表彰があり、先日も神奈川テレビニュース協会が献血風景を取材に來られ、七月二日TVKより放映されました。

献血活動を任じて来た社会福祉活動も、一昨年JRC(日本青年赤十字)が結成され、前より一層幅広くなりました。七月十四・十五日には、生徒・職員の手書きで「ハザー」を行い、売上

創立20周年を迎える吹奏楽部

同窓会の基金で結成されて発足

20周年記念演奏会 8月21日(日)10時 秦野市西公民館ホール

顧問 土屋毅

わが秦野高みごと、この世に産声をあげました。吹奏楽部は、た。しかし、この苦しみは、未来決って恵まへの発展のための苦しみでもあり、た条件では、ました。

ありません。立地条件の悪さも手伝い、優秀したが、同窓な指導者難に先ず突き当たったこと会の、援助でその後の維持について、生徒会か今から二十年の部費では、まごった楽器一つも補充したり、拡充することができない、などの苦しみを経ながら、入学式、卒業式、体育祭、

なにして、野球や体育試合の応援といった学扱い、多くの校行事への協力、文化祭、地域社回種の楽器を、同窓会総会などへの貢献と、揃えればきり「秦野高校ある所に、吹奏楽部あ

のない、大飯りの活躍を果してきました。ぐらいの怪獣(これも、同窓会からの毎年四万みたいなもの(一昨年から)のご援助、十七

ですから、生年に亘って御指導下さった、三武まれ出る苦し七郎先生(現託)青木・森屋・杉

みも、なみた本・落合などを主軸とするOBたいていなものちの全く涙なしには語れない指導ではないわけ協力があつた賜でした。

です。それが小生が母校へ赴任してきました。同窓会の方では、昭和四十年でした。全くの

下さるようお願いします。

伊勢原支部 活動報告

五十周年記念事業を顧みて

支部長 能 條 斐 雄 (中6)

母校創立五十周年を機に私達の伊勢原支部では、規約を作り役員を選出したりにして急速に組織作りが推進された。それには卒直に言つて隣りの秦野支部の活発な動きに刺激された面も大きかった。お陰様で本支部は秦野支部に続く成果で面目を保つことができた。

募金額は、一・二五万四、五〇〇円(在任一、二四七名中七八八名の募金人員で、募金率は六三、二%)。名簿購入は割当数六〇〇部中、既に四六六部が消化され(売上率は七七、六%)、特に五十一年度会費納入率と名簿売却率では秦野支部をも凌ぐ程の好成績だったと確信しております。

勿論、支部の内部では、多少の凹凸があり、各地区で集会など非常に活発で、絶えず地区活動をし

市役所の二階をお借りして役員会を開き、総会協力の反省や年度会費の納入状況や名簿の売却状況などについて報告した。

五一・二二・一三(月)午後六時から大山の神降黨方で年末の役員会を実施して、会務並びに諸会計の報告、整理を行った。

次に、支部活動の一端を記すと
五一・七・一七(土)午後二時から市役所の会議室をお借りして役員会を開き、各地区の活動状況や会報の配り方などを協議した。

次に、五十周年の募金目標を八〇〇万円に押し上げて、然も一〇〇万円以上の実績で全会員を驚嘆させた現副会長の村松晃男氏に働きかけ、協力に感謝したい。加えて、事務局長に市役所の横山清太郎氏を依頼したことも実に良かった。氏は支部の中枢にあつて、税務課長(現管理課長)さんらしい緻密さと正確さと敏速さで

五十周年の募金を始め、年度会費や支部会費の徴収、名簿の配布、売却など、ぐんぐん仕事を推進して頂いた。多忙な中を、協力、衷心から謝意を表したい。

そうして、これらの方々を中心層の発展を祈念するものである。

秦野支部の活動報告

50周年記念に協力して

事務局 唐津祥也 (中12回)

母校五十周年をこえ(支部会員の約八〇%)五十周年記念式典も昨年十月盛大に開催され、同窓会の目標とした各種記念事業も立派に完成できました。これは、まことにこの同慶にたえません。

この間、秦野支部においては募金活動に会員各位の絶大なご協力をお願いした。協力をいただいた方々は最終的には二、〇〇〇人

に、支部本部や各地区の役員さん、会員の皆様の積極的、奉仕的な尽力、ご後援が結集されて、この成果となったことを茲に改めて銘記し謝意を表すると共に、今後一層の発展を祈念するものである。

秦野支部の募金活動についてはすでに第四号で宮本支部長さんが概要を報告されています。今更私ごと同様のことを感ありますが「苦勞いただいた委員の方々やご協力をいただいた会員各位に感謝の意をこめて、わずかなりと記録をとめておくことは、私の義務であらうかと思ひ、事務局からみた足踏までの経過や今後の問題な若干の私見を交えて述べてみたいと存じます。

四十九年の五月の、第一回実行

委員に至り、従来の期別、職別別の募金方法から、地区別を主体とする方法に変更決定し、早速実行に移ることにしました。

帰途、加藤会長(当時副会長)とご一緒相談した結果、秦野はこの機会に独自の支部組織を作り募金活動もその組織によって行うというところで意見が一致しました。加藤さんの呼びかけで、川戸真助さん、川口先生、石原先生とともに高橋徳治さんのお宅へ集り支部づくり、募金活動の方法など数回にわたって検討を行った次第です。

石原先生がお忙しいなかで、秦野地区の町別同窓生名簿を作成して下さったこと、高橋さんが当面の資金や夜分の会合に、自宅を提供して下さったこと、集った方々の熱意などが支部の礎石となったといえましょう。

検討した内容は、その後そのままに実行に移されていますが、一、支部を結成し、支部組織を

募金活動組織とすること。
二、実際に行動的に機能する組織、構成員とすること。
三、そのため名簿から分る範囲で、実行力、責任感ある方々に市内を大分した地区の責任者をお願いすること。

四、同様な考え方で、地区責任者の方々、その地区の町別委員を推せんしていただくこと

五、従来から同窓会で活躍されている方々、若しくは古い先輩の中で熱意ある方に支部長副支部長をお願いすること。

なごであったと記憶しています。支部長をお人柄の宮本さんがお引受け下さったこと、地区責任者の原成さん、安国院 恵竜さんが、その後の組織づくり、事務局業務を適切なアドバイスしてく

下さったこと、会計柳川一朗さんが提供なさかなで飲みながらの打合せなど、兎角ギクシャクし勝ちなごの種の活動を円滑に進め得たばかりでなく、同窓会というもの

は、このよきなごを通じて本来目的とする親睦を得られるものを知ったことば大きな収穫でした。

地区責任者の方々も含めて数回の会合の後、四十九年十一月二十九日、市福祉会館で委員総会を開催、秦高はじめて以来の百四十

人に余る多数の同窓生が一堂に会しました。支部の結成と募金活動の承認をいただき、この時点で成功を確信した次第です。

しかし、今回の記念事業ですべ母校とともに、同窓会も進歩と発展がなければなりません。會員の増加に適應できるよう規約、組織の見直し、会費制度、会報その他の事業のあり方など、考えなければならぬことが沢山あります

秦野支部は、同窓会の中核として各種活動の推進役たるべく、支部員各位とともに努力したいと思っております。他支部にたいしても一層の「活躍」と協力を願います。申し上げます。

年度会費納入状況の報告

(文中、無断でお名前を挙げた方々、並びにその他活躍された方々を、紹介できなかつたことをお詫びします)

通常会計が慢性的な収入不足で、その上毎年新しく卒業して行く卒業生の終身会費に殆んどを依存していたことが反省され、新卒業生の入会金と既卒業生の年度会費の一本立となつてから丁度今年で五年目になります。

先ず初年度は会報その他でPRし、まあまあでしたが、翌年は早くも減り気味となり、前途多難が予想されました。併し、49年になり、50周年慶金をされる方々があり、50周年以降は支部で集金して返しましたので飛躍的に増加し、

以上にもあるわけですが、尚、今年度から、納入された方の氏名を發表することが省略されました。次表の通りです。

年度	47	48	49	50	51
振替送金	104,000	90,000	116,000	298,000	242,000
現金持参	42,000	47,500	100,500	106,000	71,000
秦野支部				133,500	676,500
伊勢原支部					357,500
合計	146,000	137,500	216,500	537,500	1,347,000

- 一宮川 明²²
- 二吉野 昇²²
- 三端山昭夫¹⁸
- 一高橋義之²¹
- 一大庭秀始²⁵
- 一尾上能之⁵
- 一広木 尚²⁸
- 四今村広行¹³
- 五小野芳夫¹⁹
- 三額田幸也⁵
- 五笠尾五郎^職
- 一飯田英夫⁷
- 一塚本 誠²³
- 一五宮川幸夫²⁸
- 一野崎節子⁸
- 一加藤文勇²⁶
- 一〇原 和夫¹⁸
- 一横溝忠之¹⁰
- 一静田真一⁷
- 二横溝アサ子¹⁰
- 一安藤俊平¹¹
- 二高橋功治²¹
- 三大原寿仲¹⁰
- 二伊藤健彦²⁷
- 一長谷川壮芳²
- 二柳川鶴哉²
- 三三富美明¹⁹
- 三青山 巖¹⁶
- 三石井英彦¹³
- 一上野義男²²
- 一〇中倉義盛^の
- 二山田賢三¹³
- 一飯山一美²⁰
- 三長谷川仁⁸
- 二窪田悦子¹⁷
- 三高橋敬介⁸
- 一柳川 誠²⁸
- 三山口省司¹⁹
- 二萩 裕子⁵
- 一園田昌子⁷
- 一脇 一伴²¹
- 三仙田磯道⁸
- 二小泉栄一⁵
- 三野地 豊¹⁸
- 二神保寿一⁶
- 三水島 博¹
- 二神保正巳¹⁴
- 二神保一夫¹⁶

「広陵博物館」?

同窓の皆さん!

資料をお送りください

「五十周年記念誌」の発行に伴われはほんの一部と思われまふ。同窓生の皆さん、なんでも結構でいい、学校として、配属先(現上鶴岡)と小生土屋とで特に育英時代の沿革、資料収集に奔走しなされた。伊東国立温泉病院長の伊藤久治先生、大磯在任中村医院の中村八郎先生、妙天寺住職添田さん、村八郎先生、妙天寺住職添田さん、げまな校内に提供してもらいました。同窓会博物館でも整えば、後輩のための貴重な教育的資料ともなることでしょう。(土屋毅記)

会費納入お願い

昭和四十六年度より会費を徴集することにしました。従来なかつたことですが、本会発展のため、絶大な御協力がお願いいたします。年会費五〇〇円。

送金の方法

同封の振替用紙に所要事項御記

入の上、最寄りの郵便局で御送金下さい。別に振替手数料二十円を要します。なお、郵便局の受領証にて本会の領収書にかき添えていただきます。(右原記)

原稿お寄せ下さい

紙面が豊かになり楽しくなるのも、一つ会員のみなさんの手にかかっています。とにかくニュースをお届け下さい。

- 送付先 秦野市下大槻二二三
- 県立秦野高等学校内
- 同窓会事務局 土屋毅宛

で、原稿、ニュース、消風などをお寄せください。(土屋毅記)

編集後記

広陵第六号をおとすけします。本号は、五十周年記念事業の報告号として特集しました。

発行所 秦野市下大槻一三番地
 県立秦野高等学校内
 〒 257 秦野高校同窓会
 広報委員会
 電話秦野(055)一四二二一三
 振替口座 東京二二二六八九
 渡辺元彦(中11回)
 土屋 毅(高4回) 青木利之(高4回)
 石井郷二(高7回)

読書室に展示しましたが、まだ